

ミュージカル牧場新聞

長津田地域ケアプラザのみなさん、こんにちは！「よこはまミュージカル牧場」といいます、今日はこちらに来ることができてとても嬉しく思っております、…どんなことをするのかというと「お話・ダンス・歌」が混然一体となった幕の内弁当のような舞台です、張り切って披露させていただきますので是非最後までお楽しみいただければ嬉しいです。

…今回の演目

今日は宮沢賢治の名作「セロ弾きのゴーシュ」を上演しようと思います。

…といつてもまあ「セロ弾きのゴーシュ」風の片鱗が見えるか見えないか…といった程度のものなので、全然違っていても天国の宮沢さんに言いつけたりしないてください。まずはどんなお話か書いておきましょう。

【あらすじ】

あるところに「ゴーシュ」というセロ(チェロ)弾きがいきました。

ゴーシュの仕事は町の映画館で楽器を演奏することです。(昔の「トーキー」より前の映画館では音が出なかつたので専属の楽隊がいたのですね)

楽隊はこんど町の音楽会に出ることになりました。ゴーシュたちは音楽のプロなので下手な演奏はできません

…ところがゴーシュのチェロはかなり「下手

つび」なものでした。楽隊の指揮者は「ゴーシュに「あれがだめだ」「これがだめだ」といろいろ怒ります。

叱られたゴーシュは家に帰ってまたチェロを演奏しました。夜遅くまで練習しているゴーシュのところに、「猫」がやってきました。猫はおみやげをくれたものの、ゴーシュの演奏にいろいろ注文を出します。

最初怒ったゴーシュも猫のいうとおりになるとチェロがちよっと上手になりました。

その日から毎晩、ゴーシュのところにいろんな動物がやってくるようになりました。動物たちとの交流を通して「ゴーシュのチェロは少しづつ上達していくのでした。



↑これが「チェロ」昔は「セロ」と言っていました。

…宮沢賢治と音楽

宮沢賢治は大的クラシック音楽ファンだったそうです。当時出回りはじめた「レコード」をたくさん買ったことでレコード会社から「感謝状」をもらったほです。(賢治の実家はお金持ちだったので)

それで「自分も楽器を弾いてみたい」と思ってチェロを買ったのだそうですが(しつこいですが賢治の実家はお金持ちだったので)あまり上手にはならなかつたそうです…そんな背景の中で書かれたお話のようです。



今日はみんなで作ろうミュージカル! 歌はそういうわけで、「上を向いて歩こう」です。

「上を向いて歩こう」

上を向いて歩こう
涙がこぼれないように
思い出す 春の日
ひとりぼっちの夜
上を向いて歩こう
にじんだ星を数えて
思い出す 夏の日
ひとりぼっちの夜
幸せは雲の上に
幸せは空の上に
上を向いて歩こう
涙がこぼれないように
泣きながら 歩く
ひとりぼっちの夜

■よこはまミュージカル牧場について

2008年夏に創設、「誰にでも楽しんでもらえるミュージカル」を考えて、作品を作りはじめました。最初はとても苦労しましたが、2010年頃より福祉施設などでの公演をスタートしたところ、ありがたいことにとっても喜んでいただけるようになりました。2016年には公演100回を達成しています。

古今東西の様々な題材を、カラフルな歌とダンスで彩りながらお送りするパフォーマンスはどんな人でもたちまち楽しい気持ちにさせると好評です。また「よこはま」の名前のおり、横浜の埋もれた民話や伝承を掘り起こしてお届けするコーナーもあります。